

2015 年度大学院ゲスト講師招聘講義

演題名：魚類の食欲と摂餌活動

演 者：田畑 満生 博士

(帝京科学大学・名誉教授)

日 時：2015 年 5 月 22 日 (金) 16 時 20 分～17 時 20 分

場 所：6 号館 206 教室

講義概要

魚を飼育する際に、給餌機と連動しているスイッチを水中に設置しておけば、魚は空腹になれば自分でスイッチを起動して摂餌するようになる。このような摂餌行動はオペラント条件付けの一種であり、「自発摂餌(じはつせつじ)」とよばれている。

自発摂餌の際のスイッチ信号を記録することによって、これまで困難であった個体や群れの摂餌活動、餌の好み、社会性など、魚の食欲に関わる諸活動に深く踏み込むことができる。また、養殖に用いれば給餌の省力化、飼料効率向上などが期待できる新しい給餌システムとなる。

本講義では、個体や群れの摂餌活動から産業への応用など、いくつかの事例を紹介いたします。

< 演者紹介 >



田畑 満生 先生：帝京科学大学・名誉教授（農学博士）

名古屋大学大学院農学研究科で博士号を取得、その後浜松医科大学助手、米国国立衛生研究所（NIH）研究員、ドイツ マックス・プランク研究所研究員、名古屋大学農学部助教授を経て、帝京科学大学教授として長く研究・教育に従事された。昨年退職され現在、帝京科学大学・名誉教授。専門は魚類を対象とした動物行動生理学であり、魚の学習能力を利用した「自発摂餌」を養殖業に取り入れたパイオニアである。

※<主催者から> 田畑先生は、産学連携を意識した研究を古くから行い、水産養殖業に画期的な「自発摂餌」システムを取り入れた人物です。これから直面する食糧問題について、農学研究を遂行する我々が何をすべきかを考えさせてくれる内容になるでしょう。研究対象生物に関係なく、教員、大学院生、学部生の皆さまの今後の研究のヒントになる内容です。皆さまのご参加をお待ちしております。

連絡先：生命科学科動物生理学研究室 中村孝博（5-405、内線7823）